

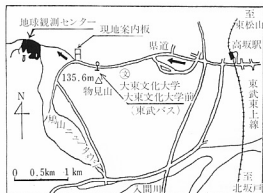
# 日本の LANDSAT データ受信局

## 宇宙開発事業団 地球観測センター

松野久也(環境地質部) 山本洋一(総務部)

昭和53年10月1日 宇宙開発事業団・地球観測センターが発足し 昭和54年1月29日からその試験運用が開始された。筆者らは 3月16日午後日本機械工業連合会のリモートセンシング技術開発専門委員会の見学会に参加し 新装なった施設・設備およびその業務を詳細に見聞することが出来た。このセンターは LANDSAT データの受信処理

についての運用を行いながら 将来におけるわが国の地球観測衛星システムの開発に資するという重大な使命を持っている。今のところはNASAとの間の“利用に関する覚書(MOU=Memorandum of Use)”に基づいて 本格的運用を目指して鋭意準備中(初期運用)の段階にある。この試験運用期間として6ヵ月が予定されている(本文29頁参照)。



第1図 地球観測センター案内図



写真1 口径 10m アンテナ (XYマウント)  
アンテナ制御卓からの指令で LANDSAT を追尾する

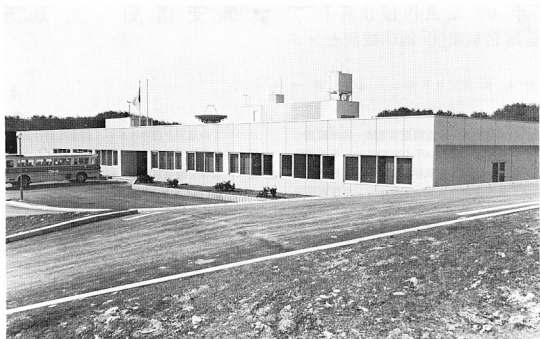


写真2 宇宙開発事業団 地球観測センター本館



写真3 アンテナ制御卓(追尾装置)

写真 4 b.  
クイックルック CRT 表示画像

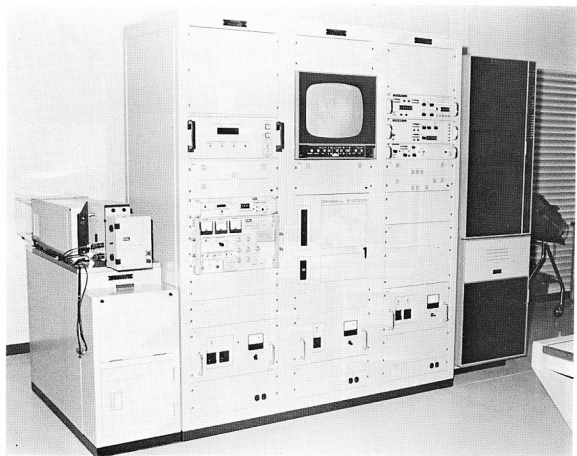


写真 4 a. クイックルック装置 ここでデータの受信状況をモニターし クイックルック画像の生産を行う

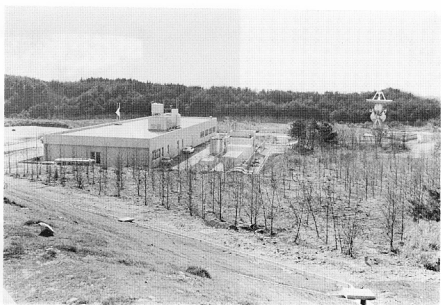


写真5  
宇宙開発事業団  
地球観測センター  
全景  
(昭和54年3月16日  
撮影)

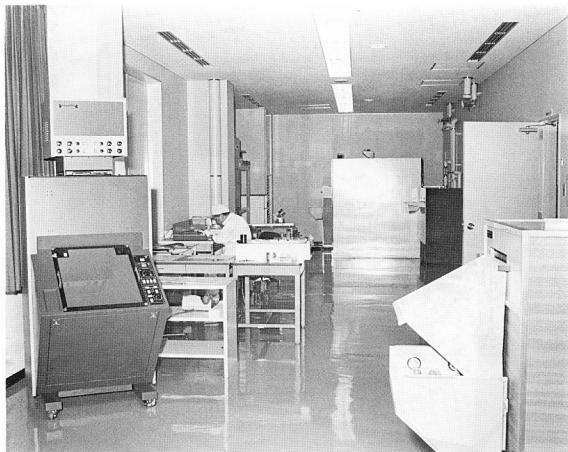


写真6 写真処理室 大きく分けて自動白黒写真処理装置 自動カラー写真処理装置 および手動写真処理装置からなる (一般の立入りは禁止されている)